

# 全労連女性部 30周年企画 オンラインで学び訪ねる 韓国歴史の旅

ナヌムの家・ハルモニとの交流、植民地歴史博物館、  
韓国民主労総女性委員会との懇談

主催：全労連女性部  
企画・実施：（株）たびせん・つなぐ

## ごあいさつ

全労連女性部30周年企画、韓国オンラインツアーにご参加のみなさん、こんにちは。

韓国は、日本の隣に位置し、古来より文化・経済交流など相互理解を深めてきた歴史があります。しかし、戦前の日本の侵略の歴史においても、今においても、負の遺産をさまざま引きずっています。改めて、その一端に触れ、学び、同じ歴史をくりかえさぬことに役立てます。また、全労連とも親交のある韓国民主労総の女性委員会のみなさんから、ジェンダー平等社会実現に向けた取り組みもお聞きします。

ツアーをお楽しみ下さい。

全労連女性部長 舟橋初恵



# 韓国の主な歴史

- ▶ 1910年8月29日：「日韓併合条約」公布。日本が韓国（大韓帝国）を植民地に
- ▶ 1919年3月1日：3・1独立運動。第1次大戦後の「民族自決」意識の高まりの中で、日本からの独立を求めた宣言と運動。ソウルなどの都市部だけでなく、農村部にも広がり、韓国の歴史家（朴殷植）によれば、参加者はのべ202万名、死者7,509名、負傷者15,961名とされる
- ▶ 1945年8月15日：日本の敗戦。韓国では光復節。実際には米軍による軍政支配下で「親日」派と言われる日本の植民地支配に協力した人物らが復権
- ▶ 1948年8月15日：李承晩が大韓民国樹立。「親日」派の協力の下での統治。朝鮮半島北部には同年9月、朝鮮民主主義人民共和国建国
- ▶ 1950年6月25日：朝鮮戦争勃発（1953年休戦協定）
- ▶ 1960年代：林鍾国（イム・ジョングック）らが民主化実現のためにも「親日」派清算の重要性を主張し調査
- ▶ 1961年5月16日：朴正熙による軍事クーデター。以後軍事独裁が続く
- ▶ 1976年：朴正熙軍事独裁政権下で、民主化運動家の取り調べ・拷問の場として「対共分室」建設
- ▶ 1980年5月18日：光州民主化運動
- ▶ 1987年1月14日：対共分室でソウル大生・朴鍾哲が拷問死。この事件を契機に6月民主化抗争。国全体の大きな運動の中で大統領直接選挙制を実現
- ▶ 1991年：元日本軍「慰安婦」の金学順さんが名乗り出る。植民地歴史博物館の母体、民族問題研究所設立
- ▶ 2009年：「親日人名辞典」完成
- ▶ 2016年：ロウソクデモが全土に広がり、翌年朴槿恵大統領罷免
- ▶ 2018年：8月29日（日韓併合条約公布の日）に植民地歴史博物館オープン。対共分室を「民主人權記念館」とすることを決定

# ナヌムの家、ハルモニとの交流

## ▶ 李玉善(イ・オクソン)ハルモニ

日本軍性奴隷制度生存者。1927年釜山出身。1942年15歳の時に現在の中国吉林省へ連行されるが解放後も現地で生活。2000年6月、58年ぶりに帰国した。以後ナヌムの家で暮らしながら世界各地で証言活動をおこなっている（現在はコロナで中断中）。

“私には残された時間がありません。私がこの世を去る前に謝罪と賠償を日本政府から受け取れるかどうかは、日本の皆さんの手にかかっています。”

## ▶ 矢嶋宰(つかさ)さん

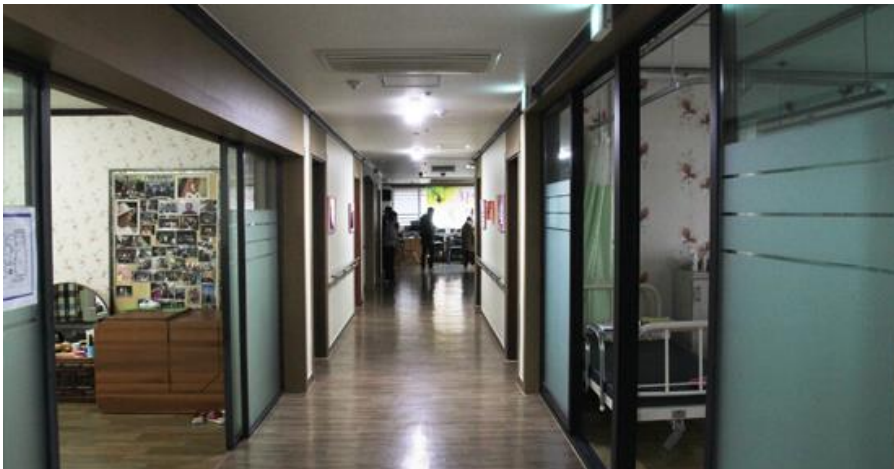
ナヌムの家/日本軍「慰安婦」歴史館国際室長、フォトグラファー。2003～2006年、ナヌムの家でハルモニ達と暮らしながら写真プロジェクトをおこなう。その後ドイツ・ベルリンで生活後2019年より再びナヌムの家に復帰。

“痛みの伴う歴史を分かち合うことからすべては始まる、というメッセージを発していく場が本来のナヌムの家です。皆さんとともに終わることなく歴史に向き合い行動していけたらと思います。”



# ナヌムの家、ハルモニとの交流

- ▶ 「ナヌムの家」は太平洋戦争末期、日本により性的犠牲を強いられた日本軍「慰安婦」のハルモニ（おばあさん）たちが集まって暮らしている生活の基盤で、1992年にソウルでスタートし、現在（1995年以降）はソウル近郊の京畿道広州市に位置しています。
- ▶ 「ナヌム」というのは「分かち合い」の意。「痛み」や「悲しみ」や「喜び」や、さまざまなものを皆で分かち合って生きていく家です。
- ▶ 1998年には日本軍「慰安婦」歴史館が、日韓両国の市民の力で開館。
- ▶ 2017年には第2歴史館（追悼館）が開館しました。
- ▶ 現在は4名のハルモニたちがナヌムの家で生活しています。



ナヌムの家生活館1階：ハルモニたちが個々の部屋を持って生活している



# 植民地歴史博物館

## ▶ 野木香里さん

皆さま、こんにちは。韓国の民族問題研究所、植民地歴史博物館で活動している野木香里と申します。民族問題研究所は、植民地主義の克服、韓国社会の民主化、そして東アジアの平和を実現するために、韓国近現代史、とくに「親日問題」や強制動員問題などに関する研究と運動を行っている市民団体です。植民地歴史博物館は、民族問題研究所をはじめ、韓日市民が力を合わせ、2018年8月29日に設立した市民博物館です。日本の朝鮮侵略、植民地支配とは何だったのか、現在も継続する植民地主義とは何か、その克服や平和はどのように実現できるか、学び、考え、行動することを目指しています。画面を通してではありますが、ぜひこの歴史運動を共にしてください！

プロフィール：一橋大学博士課程修了、民族問題研究所・植民地歴史博物館（韓国・ソウル）専任研究員。共著に『視覚表象と集合的記憶』（旬報社）、論文に「植民地期朝鮮人の「合祀」過程」（東北亜歴史財団研究叢書、66、2014年、ソウル）ほか。植民地歴史博物館学芸室専任研究員



## ▶ 金英丸(キム・ヨンファン)さん

1972年、韓国忠清北道忠州市生まれ。西江大学大学院社会学科卒業。1997年、北海道朱鞠内で強制連行犠牲者遺骨発掘の日韓共同ワークショップに参加。2002年から2006年まで高知の「平和資料館・草の家」で活動。現在は、民族問題研究所対外協力室長



# 植民地歴史博物館

- ▶ 博物館の特徴①：日韓の市民の力によって作られた博物館
- ▶ 博物館の特徴②：ソウルの龍山区に立地。ここはソウルを流れる漢江（ハンガン）の北側に位置し、植民地時代には「朝鮮軍司令部」や「統監官邸・総督官邸」「統監府庁舎・総督府庁舎」「朝鮮神社」「京城神社、乃木神社」など軍事施設や支配機構の建物を建てた場所。現在では米軍基地も（次ページの地図参照）
- ▶ 博物館の展示
  - 第1ゾーン：日帝はなぜ朝鮮を侵略したのか
  - 第2ゾーン：日帝の侵略戦争、朝鮮人に何が起こったか
  - 第3ゾーン：同じ時代、違う人生－親日と抗日
  - 第4ゾーン：過去を乗り越える力、いま、私たちは何をすべきか
- ▶ 対共分室：軍事独裁時代、拷問捜査で悪名が高かった「南宮洞対共分室」。「警察庁人権保護センター」から、「民主人権記念館」となることが決定
- ▶ 朴鍾哲拷問死事件：ソウル大生で学生会長だった朴鍾哲が、対共分室で拷問され、死亡した事件。同年の6月民主抗争に強い影響を与えた





**植民地歴史博物館**

孝昌公園  
白凡金九紀念館

淑明女子大

李奉昌義士紀念館  
(建設予定)

地下鉄6号線  
孝昌公園前駅

対共分室跡  
(現警察庁人権センター)

朝鮮軍司令部跡

龍山米軍基地移転  
(2017年完了予定)  
国家都市公園計画  
(2027年完成予定)

西大門刑務所歴史館

ソウル歴史博物館

徳寿宮

ソウル駅文化館

地下鉄1,4号線  
ソウル駅

地下鉄4号線  
淑大入口駅

地下鉄1号線  
南宮駅

安重根義士紀念館

統監府跡  
日本軍「慰安婦」記憶の場

大韓民国歴史博物館

京城府民館跡(現ソウル市議会)

京城府庁跡(現ソウル市庁)

景福宮

南山

朝鮮神宮跡

龍山米軍基地

# 全国民主労働組合総連盟

## ▶ 全国民主労働組合総連盟(民主労総)

全国民主労働組合総連盟 (KCTU) は、韓国最大の全国労働組合センターであり、全国で110万人の組合員を実質的に代表しています。16の産業別労働組合/連盟で構成され、16の州および大都市に地域支部があります。KCTUは、すべての労働者の労働基本権を求めて、労働者が社会の主人公である世界を構築するためにたたかっています。

## ▶ 女性委員会委員長:パク・ヒウンさん

コロナ19は女性労働者の不平等をさらに加速しました。労働の場で女性労働者が大変弱い状況に置かれていることをハッキリ見せたと思います。中でも女性労働者の多いエッセンシャルワークやケア労働の領域が顕著に表れています。

民主労総女性委員会としてはこのような現実を社会的に明らかにし、労働政策を変化させることが重要だと思っています。各事業所で性別分業による労働搾取構造の問題提起を行い、職場と組合でジェンダー平等の組織文化をつくらなければならないと思っています。

大邱城西公団労組移住労働者事業部長/民主労総未組織非正規戦略事業室長/民主労総大邱地域本部8期、10期事務局長を歴任



## オンラインでナヌムの家のハレモニと交流しませんか

- ▶ コロナ禍で訪問客を受け入れることができないナヌムの家では、オンラインによるハレモニとの交流を積極的に推進しています。
- ▶ 5人ぐらいのグループが集まれば、ハレモニと楽しく交流ができます。
- ▶ 時間は30分程度です。
- ▶ 日時などは調整させていただきます。

## 植民地歴史博物館のガイドブックができました

- ▶ 「植民地歴史博物館と日本をつなぐ会」が、ガイドブックを作成しました。
- ▶ 博物館2階の常設展示室の展示物について写真（カラー）で表示し、日本語に翻訳した説明を付けてあります。これがあれば、博物館見学の際に日本語ガイドが付かない場合でも、展示内容について基本的にご理解いただけます。
- ▶ ガイドブックは1部1,000円（+送料370円）です。

上記2点につきましては、（株）たびせん・つなぐに、電話、メール、ファックスでお問合せください。お問合せ先は次のページにございます。

(株) たびせん・つなぐ

〒101-0064 東京都千代田区神田猿楽町1-3-1 北村ビル302

TLE : 03-5577-6300 FAX : 03-5577-6310

Email : [info@tabisen-tsunagu.com](mailto:info@tabisen-tsunagu.com)

HP:<http://www.tabisen-tsunagu.com/>